

災害医学		講義	教授 千明 政好 講師 清家 洋
科目カテゴリー	救急救命士コースの専門分野科目	科目ナンバリング	13381401

1. 授業のねらい・概要

災害医学・災害医療，中毒，放射線障害について主に講義で学び理解を深める。また，災害対応の具体例を踏まえた今日的課題について考察する。

2. 授業の進め方

参加型授業を提案し，双方向的な授業を実現できるようにする。理解を深めるよう画像・動画も使用した説明を行うとともに，学生自ら習得した知識を活用したアクティブラーニングによる授業展開を行う。

3. 授業計画

回	授業内容	授業形態	担当
1	災害医学総論 災害の定義と災害医療の目的	講義	清家 洋
2	多数傷病者への対応 CSCATT, トリアージなど	講義	清家
3	災害医療に係る法規・体制 災害拠点病院, DMAT, EMIS など	講義	清家
4	災害時に問題となる合併症と治療 感染症, 呼吸器障害, 心筋症など	講義	清家
5	災害時に問題となる特異的な外傷と対応策 クラッシュ症候群など	講義	清家
6	惨事ストレス 災害を契機として現れる精神的・肉体的な影響とその対策	講義	清家
7	災害対応の実例 過去の災害の実例を踏まえた今日的課題	講義	清家
8	第1回～第7回までの内容のまとめおよび 小試験1回目	講義	清家
9	中毒総論 一般的な中毒の概念と病態理解	講義	千明政好
10	中毒各論 ①工業品中毒, ガス中毒 (消防活動含む)	講義	千明
11	中毒各論 ②自然毒中毒, 魚介・山菜など自然毒による中毒	講義	千明
12	中毒各論 ③家庭用品中毒, 医薬品中毒, 農薬中毒	講義	千明
13	放射線障害総論 放射線の概要と人体への影響	講義	千明
14	放射線障害各論 放射線障害への対応, 観察と処置	講義	千明
15	第9回～14回までの内容のまとめと小試験2回目	講義	千明

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

1) 予習（必要時間：約 60 分）

授業計画を参考に，該当授業箇所について予習すること。

2) 復習（必要時間：約 60 分）

テキストの授業該当箇所と配布資料などをもとに復習し理解を深めること。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

- ・筆記試験 小試験2回，まとめ試験1回，各試験実施直後に解答と解説を行う。
- ・課題 毎回授業の初めに15分程度の予習を課すことがある。すべての項目を記入し提出すること。課題の内容は授業中に解説する。

6. 授業における学修の到達目標

救急救命士として社会で活躍するために必要な災害医学分野の知識を習得できる。また、当該分野における救急救命士国家試験に関する対策を理解することができる。

- 1) 災害の定義と災害医療の目的が理解できる
- 2) 多数傷病者への対応、災害医療に係る法規・体制が理解できる
- 3) 災害時に問題となる合併症と治療および特異的な外傷と対応策が理解できる
- 4) 一般的な中毒の概念と病態および工業品中毒、自然毒中毒、家庭用品中毒、医薬品中毒、農薬中毒が理解できる
- 5) 放射線の概要と人体への影響および放射線障害への対応、観察と処置が理解できる

7. 成績評価の方法・基準

- 1) 小試験 2 回 (60%) 本試験 (40%) により成績評価を行う。
- 2) 小試験と本試験の合計点数の 60% 以上を合格とする。
- 3) 再試験は実施しない。
- 4) 受験資格として 3 分の 2 以上の出席かつ、全ての課題が提出されている事。

8. テキスト・参考文献

救急救命士標準テキスト編集委員会：改訂第 10 版 救急救命士標準テキスト（へるす出版）2020.

JPTEC 協議会編著：改訂第 2 版補訂版 JPTEC ガイドブック（へるす出版）2022.

適宜指定する教材

9. 受講上の留意事項

授業時間中はスマートフォン使用禁止、イヤホン使用禁止、帽子着用禁止とする。従わない場合は退室させ欠席扱いとする。授業中にもかかわらず学生同士の会話等がひどい場合は授業妨害と判断し退出させ欠席扱いとする。

テキストは毎回の授業に必ず持参すること。また、参考文献は適宜紹介する。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当有無

該当する。本授業は、大学病院救命救急センターや集中治療室等における 20 年以上の実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。救急救命士コースの専門科目である。